

令和8年度 第1回美術館協議会 議事録

1 日 時 令和8年7月2日(木) 午前10時～午前11時30分

2 会 場 教育センター 3階 第1セミナー室

3 議 題

(1) 報告事項

ア 入館者状況

イ 美術館事業の現況

(2) 協議事項

ア 令和8年度 後期展示事業活動計画(案)

イ 令和9年度 展示事業計画(案)

4 出席者

(1) 委 員 山下泰生会長、石田満美副会長、池田安澄、山崎淑校長、
米村 環、高谷美貴子

(2) 事務局 森田教育総務部長、大西文化・スポーツ課長、佐藤文化・スポーツ
課文化芸術係係長、宮崎文化・スポーツ課文化芸術係主事、
向山美術館館長、和田美術館専門員、橋本美術館事務補助員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 会議内容

開会

委嘱状交付

自己紹介

会長及び副会長の選出 会長に山下泰生氏、副会長に石田満美氏を選出

会長挨拶

-事務局報告-(1) 報告事項

館長：入館者状況、資料3ページ参照。令和5年度から8年度の6月末まで、企画展を
開催している月は2000人を超えて入館されるようになった。現在放映されている大

河ドラマの影響で、歴史ファンの方も美術館にお立ち寄りいただいているという状況になっているが、資料館の来館者数 270 人の日に美術館は 60 人程度だったので、流れて美術館へも来ていただくような工夫が必要と感じている。

・イ美術館事業の現況①企画展別入館者から関連事業まで、スライドをみながら説明。

委員：ナイトミュージアムすごく綺麗でいろんな方がたくさん来てくださっていてとても良かった。「鬼が云う展」大津絵の展示が良かったがもっと詳しく説明が欲しい。

館長：ありがとうございます。「鬼展 2」をやって欲しいとの声も多いので、検討させていただこうと考えています。

-事務局報告-(2)協議事項

ア令和 8 年度 後期展示事業活動計画（案）

館長：前記展覧会のご案内、資料 6 ページ後期展示事業計画（案）に沿って説明。

・「2026 版画展」7 月 20 日月曜日祝日まで、週末には摺り体験。会期中教育センターの生徒さんたちが体験に来られる予定。

・「第 6 回アート・ティーン公募展」今年から応募の範囲を拡大して兵庫県内の 10 代の方に広く応募していただくため、初めての試みで配送での受付を始めた。ウェブでの申し込みも始めたので、この結果をもとに毎年強化していきたい。

・「くしげまちしょうごと仲間たち展」立体作品、彫刻の展示。櫛下町祥吾さんとその仲間たちの方のワークショップは 3D プリンターで出した立体に色を付けるなど、若い子がやってみたいなというようなワークショップを考えてくださっているので、子どもたちに来ていただけるように広報的な努力もしていきたい。

・三木市文化芸術祭の共催として「三木市ゆかりの芸術家作品展」（仮称）、寄贈作品や収蔵品の作品をもう一度見直して、三木市の皆様に楽しんでいただこうと計画している。

・「第 51 回グループしぶがき展」2 階で特別展、浅田かつ子さんの個展開催。

・「三木市美術協会の洋画部会の個展枠」で岡田慶一さんの個展の予定。

アート・ティーンなど三木市の芸術に貢献して下さった「三木東高校美術部同窓会作品展」美術部の顧問の先生と相談をしている。三木東高校が閉校となる記念として展覧会を開催する。

・「第 4 回杉室坊の集い展」毎年京都でされている貴重なグループ展、今回は三木で展覧会をしていただく予定。

・展覧会の関連事業として、第 6 回アート・ティーン公募展会期中の 8 月 11 日「夏のワークショップ」を開催。みなぎの書道展への啓発にもつながるように手ぶらで来て書を楽しめる「手ぶらで書」、「消しゴムはんこ」、ひとみとまか先生「ア

ルコールインクアート」。今回初めて「紙版画で遊ぼう」高濱美香先生にお願いする予定。様子を見ながら子どもたちも楽しめるようなスペースなども作って、アート・ティーン公募展を盛り上げていく。「三木市ゆかりの芸術家作品展」ワークショップを考えている。それぞれの展覧会で、できる限りワークショップをして、展示だけではなくて体験していただく場を提供していく。

・芸術講座は年 10 回と回数を減らしたが、その分芸術の個数を増やし、書・森川先生、ファッションデザイン・山本豊先生、鉛筆画・野口先生、写真・玉田先生、篆刻・山谷先生ということで、5 講座開講している。

・コラボ企画 11 月 20 日 UMA フェスとして芸術講座玉田先生に撮影会を行っていただく。

-事務局報告-(3)協議事項

令和 9 年度展示事業計画（案）

館長：資料 8 ページ令和 9 年度展示事業計画（案）

・「三木市美術協会洋画部会展」今回は洋画部会で開催。令和 9 年度は堀光美術館の 45 周年となるので、その関係でいろいろな企画を取り入れていく。「ありがたいのちょっと大きな絵手紙大賞優秀作品大ありがとう展」広島県安芸郡熊野町の筆の里工房で毎年開催されている絵手紙の企画。巡回展の一つとして企画。このときに 2 階では、「芸術講座の作品展」を開催。絵手紙を楽しんでいただくようなワークショップを考えている。「第 7 回アート・ティーン公募展」今年の配送・ウェブ申し込みも含めて、結果を検討しつつより良いものに変えていきたい。特別企画展として岩手大学の「竹本悠大朗先生」個展。10 月は美術館のメンテナンスとして倉庫を片付けたり、ボランティアさんに力を貸していただいて、壁紙を貼ったり、ペンキ塗ったりなど計画している。「三木自然愛好研究会 30 周年」記念展。米村環さんとご相談しているところ。「第 52 回グループしぶがき展」。「三木市美術協会の日本画部会個展枠」橘田政明さんの水墨画の作品。「三木市ゆかりの作家展」堀光の 45 周年を祝うような展示とワークショップなどを計画。

・堀光美術館の 45 周年記念イベント、年間の展示 8 回全部来ていただくためのスタンプラリー、三愛研 30 周年記念のワークショップ、講演会。

・芸術講座は、5 講座引き続き開催予定。

・コラボ企画、観光振興課とアジサイまつり、UMA フェス。歴史資料館と形紙展。市史編纂室の方でもコラボ予定。9 年度は二の丸で数多くコラボ。45 周年にふさわしい企画をしたい。

副会長：最近美術館の変革が目覚ましく、喜びでいっぱい。次になにをするのか楽しみにしている。

委員：アート・ティーン公募展について、昨年の木彫出品者は１人だけだった。10代の学生の人たちが木彫作品を作る下地を三木市としては何か対応策などあるか。三木市は刃物の町というところ、その三木市でやるアート・ティーン公募展ということで、木彫の部門があるので、是非木彫作品を作って欲しいと思う、授業などでも。

事務局：小学校では肥後守を使って、竹とんぼなど制作したりしている。

山崎校長：三木市教委からの資料を活用して機会をいただき、学校によってはイベントをして親子で参加したりする。三木の子たちなので三木の刃物を使う機会をいただいている、一応そういう下地はあるが、中学校高校へ繋がっていくかどうかは…

課長：難しいのが現実だが、部活動が来年の夏終了するので、地域クラブの中で地元の子どもたちと、そういうことを活用しながら、クラブが立ち上がればいいなと思っている。ぜひ皆さんご協力いただきたい。

委員：アート・ティーン公募展の木彫は、木彫りで立体作品というところに難しさがありそう。

館長：壁掛など、授業で制作したものも受付しているが、それすらも授業で制作されなくなっている。絵画も含め、部活が無くなるので、アート・ティーン公募展に向けて勉強会を美術館で開催するなど考えている。彫刻を出してくださった先生に聞くと材料がないという理由も聞くので、検討したい。

会長：小中学校、特に中学校の部活動に関して、関西国際大学でスポーツクラブの学生がスポーツ関係で何とか協力できないかと相談している。三木高校の評議員会に出ると中学生の部活の話題になる。学校で難しいとしても地域や周りが、イベントやクラブ活動などで支えていくというのは重要。美術館もそういった観点から子どもたちに向けたイベントをすることが重要ではないか。

副会長：城郭条例はどの程度の縛りがあるのか。例えば、夜にイベントでキッチンカーに来てもらって飲食をするのはどうなのか。どの程度美術館の中や外に触れるのか。

課長：敷地内は史跡なので基本的には掘ることは出来ないが、今年から３年間、本丸跡と二の丸跡の整備をする。樹木伐採や遺構の整備など令和10年度まで予定している。掘ったり削ったりということでない限り制限はない。キッチンカーも手続きを

踏めば、増やすこともできる。

館長：ナイトミュージアムが話題を呼んでいて、中央公民館で月見の催しのときにコラボの話をいただいている。このように三木市のなかで横に繋がっていきたい。二の丸の状況を見つつ、皆さんに楽しんでもいただける場にしたい。

会長：コラボという点に関して、文化施設なので図書館とのコラボをしてほしい。

館長：上田桑鳩展でコラボをお願いして、書籍を展示していただけたが図書館に作品を展示することはセキュリティの問題で実現しなかった。

会長：体育施設とコラボは難しいが、文化施設だからコラボは必然と感じたが残念。

課長：昨年度の美術館協議会のご質問で、階段利用できない方を2階にどうやってアプローチするかということで、手続きが順調に出来れば令和9年10年度に向けて国の助成制度を活用して階段昇降機を設置できるよう検討している。美術館の来館者や、三木城に来られる方向けに外からもトイレを利用できるような形で改修を考えている。それも同じく国の助成制度を利用して来年度以降に計画をしている。

副会長：農協からの道や、大手の方の道に、堀光美術館に行くための看板が上の方についているが、もう少し下に下げるか見やすい場所に移動できないか。

課長：かねてからそういうご意見があったので、国の助成制度を活用して来年度以降に、周辺や駅からのアプローチも含めて案内板を来年度以降に計画している。

委員：堀光美術館に作家さんの紹介をする基準はあるか。

館長：基準は特にないが、ご紹介いただいた展示など作品を見に行くようにしており、作家さんとお話しさせていただいたりしているので、情報をいただきたい。

閉会 会長 挨拶